

2015年

9月号No. 55

9月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 水戸平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

頒価 ¥220/月
毎月6日発行

核兵器廃絶署名
48,244筆
(8/26現在)

2015世界大会に参加して

これからの僕たちにできること

取手市立永山中学校1年 小川凌也

原爆が落とされた日も、こんな暑い日だったと思います。

僕は中学一年生です。だから、原爆で全滅してしまった広島に中の生徒の話に、特に心が惹かれました。

一学期の国語の授業で、広島中生と原爆について書かれた「碑」という話を読みました。中学一年生の彼らは、建物疎開作業をするため集まっていたところ、真上に原子爆弾が落とされました。僕と同年の子供が死と戦ったのです。一学級の入江君は、「顔はやけどでひどく腫れ、腕と両足の皮膚がぶら下がっていた」といいます。どれだけ苦しかったか考えるだけでゾッとします。建物疎開作業に駆り出されただけなのに、これだけの被害を受けたのです。

こんな話を読んで、今回の広島の世界大会に参加しました。そこでは、被爆者の方の被爆体験を実際に聞くことができ、原爆の恐ろしさ、戦争のつらさを知りました。ひもじかった子供時代、何十年もたってからの原爆症の発症、被爆者だから子どもを産めないなどというレッテルを貼られ、差別を受けたことなど、さまざまなつらい話を聞くことができ、平和な世界に生きる僕にはこんなつらい生活は絶対できないなと思いました。

また、平和記念資料館にもいき、たくさんの展示物を見てきました。その中には、原爆で犠牲になった広島中生の遺品もたくさんありました。これらの展示物が、すべて七十年前には実際使われていたもので、それらが一瞬でこんな姿になってしまったと思うと、悲しい気持ちになりました。

さらに、本川土手にある、広島中生の碑にも行ってきました。碑の裏には、生徒全員の名前が刻みこまれていました。教科書に載っていた人数を実際に名前で見ると、その数の多さを実感し、改めて驚きました。これから未来のあった中学生たちは、一人残らず全滅したのです。

今、日本は平和です。食べるものもあり、着るものもあり、住むところもあり、幸せな生活をしています。しかし、戦争法案によって、その幸せは長く続くかどうか分かりません。だから、僕たちの世代で、戦争の恐ろしさと被爆者の被爆体験を引き継ぎ、戦争をしようとする日本を変えて行かなければいけません。これからは、僕たちが頑張っていく時代です！僕たちの力で戦争なんてない、明るい日本、平和な世界にしていきます。



茨城から参加した。国際会議（日）は、から（2）日（9）月（2）日（8）と



二階の手すりに飾られたペナント（上）と茨城からの代表团（下）



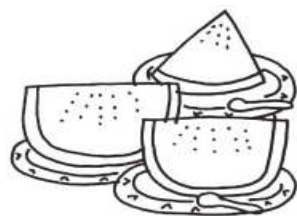
今年の世界大会は、「被爆70年を転換点にしよう」を合言葉に、広島と長崎の両大会ともインと「被爆70年を転換点にしよう」を合言葉に、決意を新たにしてきました。（参加者らに広範な人々に広め、核兵器禁止条約のすみやかな交渉開始を求める世論と運動をいっそう強めるならば、核抑止力論を打ち破り、核兵器のない道を拓くことができます（長崎からのよびかけ）と力強く宣言されました。緊迫する戦争法案廃案をめざす運動、辺野古新基地を作らせないたたかい、原発再稼働を許さない活動などと連帯していくことの重要性も、大きなテーマとなりました。

原水爆禁止世界大会

世界と日本各地の運動に学び、核兵器廃絶の世論を茨城でもひろげよう！

協代表团は、広島へ41名、広島・長崎共に長崎へ5名、（他に茨厚労代それぞれ六千名、表が長崎へ5名）。核兵器廃絶をめざす世界各国からの代表が参加しました。核兵器廃絶をめざす世界各国からの代表が参加しました。

核兵器廃絶をめざす世界各国からの代表が参加しました。核兵器廃絶をめざす世界各国からの代表が参加しました。



今月の草花



トロロアオイ

黄蜀葵（トロロアオイ）
名前の通り、根をすりつぶすと、とろろのような粘りがあります。和紙を漉（す）くとき、繊維の繋ぎにします。ちなみに長塚節（結城郡国生村・現常総市国生）著「土」の中では、「ねり」とふり仮名がありました。オクラにそっくりな花（ワサビに似た軽い味で食用のハナオクラというのもある）ですが、葉の形が違います。濃いクリーム色の花。漢名「黄蜀葵（おうしよつき）」、別名「通和散（つうわさん）」中国原産。薬用、観賞用に栽培される。

黄蜀葵（トロロアオイ）



映画「日本と原発」を上映しませんか

団体・小グループ・個人で「観る会」を開催し、
てください。申し込みをお待ちしています。
連絡先：映画「日本と原発」を観る会いばらき
〒310-0062 水戸市大町3-1-24
水戸翔合同法律事務所（担当：花山）
TEL：029-231-4555 FAX：029-232-0043

「戦争法」に反対、沖縄

辺野古の新基地建設反対高揚

初めての国際会議で非常に感激しました。太平洋島礁国をはじめ、欧米など20か国14名の外国からの参加があり活発な討論がありました。

大会テーマは「核兵器のない平和で公正な世界のために」「被爆70年を核兵器廃絶の転機に」でした。8月2日は開会総会の澤田昭二日本原水協代表

代表理事の開会宣言に続き、第一セッション「広島・長崎の原

報告 国際会議

爆被害と被爆者の闘い、第二セッション「核兵器全面禁止条約、核兵器のない世界、平和運動と市民社会の役割」について討論。8月3日は、第三セッション「核兵器のない世界へ」核抑

止論の克服、紛争の平和解決、安全な暮らしと環境」の討論。午後から分科会 第三分科会「核兵器のない世界」第三セッションと同名テーマで討論。8月4日の午前は閉会総会、宣言の採択のプログラムでした。

今回の特徴は国際的な反核グループが一堂に会し、「核兵器廃絶の法的な拘束力を持った条約を制定する」点で異論なく一致し、このために何をするか話された点です。

そして、秋に新しい行動と核兵器廃絶を求める署名に取り組むことが提起されました。

被爆70年の今日、被爆の実相を知らせ、継承すること、核兵器の非人道性を告発することを世界に広め、核兵器廃絶の転換点にする決意を表明しました。そして、核保有国の中での取り組みを強化し、特に、核保有国の衛星国

(核の傘に入っている国)である日本政府を追い詰め、核抑止論を打ち破ることの重要性が強調されました。

その中で、中国を包囲するアメリカの核軍事政策がグアム、マリアナなどの太平洋島嶼諸国民の文化、生活、環境などの犠牲によって展開されているとの告発がありました。会議中、安倍政権が「辺野古の新基地建設の1か月の中止のニュース」が報告され、歓声が上がりました。島ぐるみで闘っている沖縄の闘いの歴史の報告が米軍と闘っている参加者に確信と励ましを与え、連帯が表明されました。

また、安倍内閣がアメリカの核兵器を運搬するなど、非核三原則をないがしろにし、アメリカの核戦略に深く組み入れられる危険性が指摘され、戦争法を許さない決意が確認されました。この闘いは、空前の盛り上がりの中で安倍首相が進める戦争法が核兵器廃絶、沖縄辺野古新基地建設、原発再稼働の闘いは同じ根っこであることが明らかにされ、連帯を広げに広げて闘うことが強調されました。

私は二日から参加し、第三分科会に参加し茨城県の非核自治体宣言があると一自治体で100%になること、これらの取り組みと意義について報告しました。

今後の闘いに確信と展望を与えてくれた感動的な三日間の会議でした。

(加藤 岑生)



国際会議で発言する加藤県原水協会長

戦争No! 安倍政権No! リレートーク@茨城

安保関連法や安倍政権にNoを突きつけようと、8月23日、県内では水戸を中心に約800人が参加、「戦争法案反対!」を訴えました。



水戸市 制服向上委員会 8.23 南口パデストリアンデッキにて

各団体・個人の怒りが沸騰、「制服向上委員会(写真)」も登場し、ノリのいい替え歌四曲を披露。「強い日本より、平和な日本がいい」と、大いに盛り上げました。

また、小林節慶大名誉教授は、安倍流「積極的平和主義」＝「軍国主義」と告

発。リレー・トークでは約20人の方が、それぞれの胸のうちを語り、この法案を絶対に許してはいけないことを、改めて確認し合いました。

8月30日の国会前デモも行きましよう!

あなたのお部屋に愛と平和のちひろカレンダーを

2016年版ちひろカレンダー

今年も原水協の活動を支える財政活動の一環として、ちひろカレンダーを販売します。

また、原水協では、仮設住宅にお住まいの方へのやさやかな支援として、今年もカレンダーのプレゼントします。復興庁によれば、2015年7月16日現在、全国の避難者数は約20.2万人。震災から4年半が過ぎましたが、今なお、約12万人の方が(茨城県内にも、2,800人余)が避難しています。再稼働した川内原発のある鹿児島にも100人以上の方々が避難しています。

皆様のお力添え、ご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

販売価格 ¥1400... (税込¥1512)

県原水協への納入額...¥1000 (販売・被災地支援とも) 但し、被災地支援の団体・地域原水協などの扱いは¥900

非核自治体宣言

利根町要請

8月20日、利根町を訪問し、町長の遠山 務氏に茨城県平和擁護県民会議、茨城県平和委員会、原水爆禁止茨城県協議会、茨城県平和友好祭実行委員会の四団体代表が面会し、「非核宣言都市宣言」の決議することを要請しました。遠山氏は「6月議会の折に同様の要請を受けましたが趣旨には賛同ですが議会日程の都合で提案できませんでした。

今回9月議会では議会提案という方向で話し合っているところですので。」と述べました。

被爆70年の年に、県内自治体の100%非核宣言の実現を契機に、被爆者団体、核兵器廃絶運動に携わる個人・団体の話し合いのもと、各自自治体の非核平和行政の充実へ向けた運動が発展することを願いたいと思います。

(加藤)

編集後記

せわしなかった8月も過ぎ、9月に入り「戦争法案」が、いよいよ正念場を迎えました。以前の運動のような団体中心でなく、今やすっかり「個人参加」が主流となりました。

8月23日に来水した伊藤千尋さんは「国民の1割が変われば社会を変える原動力になるし、1・5割が変われば絶対に変えられる。」と述べていました。

今の政権は「亡国政治」そのもの。

「戦争法案」も「原発再稼働」やTPPも、根っこは同じ。こんな中で気になるのは根っここの「核兵器廃絶」が、後景に押しやられることです。何がどうあっても「核兵器廃絶」が喫緊の課題であることには変わりありません。一步一步、地道で楽天的にやっつけていきましょう。

(柳)

